

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年5月10日 午後7時～8時30分  
会 場 福岡新田集会所

参加者 43人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆大井地域には新しい庁舎ができるが、こちらはどのようになるのか。
- ☆本庁舎については、建替えにするのか耐震補強して増築棟を建設するのか方針を決めて、5月18日の臨時議会で審議予定です。
- ◆3月11日の時、電柱が揺れてとても怖かったが、埋設にできないのか。
- ☆なかなか許可にならないこととトランスの置き場が必要となることから難しく現在は計画はない。市内ではサンロードのみで実施済み。中央通りでは、トランスの置き場や電柱の埋設場所について住民の合意が得られなかった。また、一般のところは許可にはならない。
- ◆福岡新田は、避難所が細長いので、問題になるのは連絡方法で、費用のかからないよい通信方法はないか。西公民館分室や新田保育所があり、避難したその後体の不自由な方などへの活用ができないか。一時避難場所を設けたが、その他に一旦避難できるよい方法はないか。
- ☆市役所と各公共施設間を無線電話で連絡が取れるように今年中に整備をする。それにより各避難所での避難者の状況は把握できるようになる。しかし、自治会の中で連絡を取り合う方法は、予算の問題もあるが、自治会の防災機材の整備の中で考えていきたい。体の不自由な方への対応は重要だと認識している。災害発生時には、公助は1割とあってほしい。災害時には、避難所に安全に避難できるとは限らないので、一番大切なことは、各自で一時避難所にまずは避難すること。それから、避難所へ避難してほしい。しかし、体の不自由な方たちの避難などは、地域の力が必要となる。新聞では富士見市が農家と協定を結び一時避難所を確保するとのことであり、本市もこれから一時避難場所の整備を図っていきたい。
- ◆福岡江川や農業用水を利用した天候に影響されない小水力発電ができないか。歴史民族資料館で市内在住の「角田史雄氏」の講演があった。減災という言葉をも日本で始めて使った方でもあり、一般の人にも話を聞ける機会を作ってほしい。シラカシなどの火災延焼を防ぐ防火樹を活用してはどうか。
- ☆発電は有効な手段の一つだとは思いますが費用もかかるので研究したい。本市でも発電ではないが、本庁については電力をPPSに切り替えた。講演については、意識を高めることが重要なので検討したい。その他提案は検討したい。

◆計画停電は、はっきりした時間が不明で大変困った。計画停電の表を見てもわからなかった。何とかならないのか。

☆計画停電は戦後初めてのことで、市ではどうしようもないことであったが、人口呼吸器を使用している方など大事に至るケースに対しての備えはしました。一番困ったことは、清掃センターが停電すると再起動に時間がかかることと停電によって中途半端に止めるとダイオキシンが発生する事態になること。情報提供については、ロビーに最新情報を提示したり、自治会・町会長の協力で計画停電の表を配布してもらった。今回の値上げに対しては、ぎりぎりまで抗議し、条件を付けて受け入れた。東京電力には二度と計画停電がないようお願いしたい。

◆原発が停止したが、今年は計画停電は大丈夫なのか。

☆東京電力に聞かないと不明だが、現段階では節電前提で乗り切れると聞いている。情報が入り次第提供します。

◆家の裏の民家がボロボロの状態、空き家の問題で悩んでいる。

☆現在条例があり、住所を調べて手紙を出します。駄目なら市長から命令を出します。

◆防犯の青色パトロールカーにボランティアで添乗するが、地震で空き家のアンテナが倒れかかっている危険。

☆こちらで調べます。

◆防災倉庫の中を見たが、災害に対応できるものになっていない。学校の余裕教室を活用し、毛布、飲料水などを備えた方がよい。学校に避難してきても何も無い状態よりも毛布、水などを備蓄すれば運ぶことなくすぐに活用できる。

☆学校の大規模改修実施時に地域で活用できる教室を設けたいと考えている。防災倉庫については、これから充実をしていく。ミルクなどは期限切れ前に保育園で活用したり、電池なども切れる前に使用して回転させている。現在、計画を見直しているので、提案を参考としたい。

◆3月11日の震災で旧火工廠の壁にひびが入り、連光寺も壊れた所があったが、市の被害状況は。福岡高校を防災に有効活用してはどうか。

☆市役所もガラスにひびが入った。現在でも壁のひびなどの被害証明の申請がある。今までで約15件あった。本市は、近隣より震度が低い地域で、建物被害はほとんど無かった。当日は、約1万5百世帯が停電し、高層建物の水が出ないので給水車を出した。保育所では、停電していない保育所に子供を移し、泊り込んで翌朝まで対応をした。また、帰宅困難者が出たので、公共施設を開放して対応をした。福岡高校については、再編計画により1つの市に2校あることから統廃合の対象となった。庁内で活用方法を提案させている。県にも地元活用の要望をした。体育館やグラウンドの市民への活用や福祉関係への活用などが考えられる。しかし、活用には費用がかかるので、活用により他の財源が浮くなどの方策を探っている。

◆被害想定での避難者は約1万2千人となっているが、各避難所への避難者はどの位想定しているのか。

☆いろいろなケースが考えられるので、想定することは難しい。必要なことは、県が1日分、市が1日分確保するので、自分で1日分として3日間分の食料を確保してほしい。その間に九州や関西地方、自衛隊からの物資などの救助が来るので、その72時間について、命を守っていく必要がある。

◆教育委員会などからの資料に放射線に関するものがない。広報には掲載されたが、市内では高い数値の所はないのか。

☆市内100数箇所調べたが、2.3マイクロシーベルトを超えた所なかった。雨樋などに数値の高い所があった。また、南台あすなろ公園の一部に高い所があり、土をとり除き低減した。インド産のサンゴの粉を使用しているが、原因は不明。現在、県知事が瓦礫の受入れを表明した。逆の立場もあり得るので、危険ではない瓦礫に対しては本市でも可能な限り協力したいと考えている。

◆携帯では緊急地震速報があるが、市から避難についてのお知らせはあるのか。

☆Jアラートという国が勝手に防災無線に情報を流すシステムはある。現在、このシステムは暫定運用なので大井地域に伝わるのに45秒かかり遅れて伝わる状況なので、手動に切り替えている。

◆防災無線が聞き難い、いつまでに整備をするのか。

☆3か年で整備していく。聞き難いのは、建物が新たに建つなどが原因となっていることがあるので、状況を市に伝えてほしい。スピーカーの角度を変えると聞こえるようになることがあるので調整をします。